

会議名称	令和5年度 門真市文化芸術推進審議会
開催日時	令和6年3月13日（水）午後3時から午後4時15分まで
開催場所	門真市役所 本館2階 大会議室
出席者	（会長）清澤会長 （副会長）朝倉委員 （委員）本田委員、中出委員、わかぎ委員 【出席人数5人／全6人中】
議題 （内容）	・今年度の文化芸術事業に関する取組みについて ・門真市文化芸術推進基本計画に基づく本市の取組状況について
傍聴者数	0人
担当部署	（担当課名）市民文化部 生涯学習課 （電話）06-6902-7139（直通）

【事務局】

それでは、定刻になりましたので、令和5年度 門真市文化芸術推進審議会を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

開会に先立ちまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。

資料1 文化芸術推進審議会の会議公開要領でございます

資料2 委員名簿でございます

資料3 門真市制施行60周年記念事業についての見出しでございます

資料4 パイロットプロジェクトの取組状況

資料5 関西フィルハーモニー管弦楽団との取組状況

資料6 指定管理者指定事業実施状況、指定管理者自主事業等実施状況

資料7 門真市文化芸術推進基本計画の取組状況

以上でございます。資料に不足はございませんか。不足がございましたら申し出ていただければと思います。

本日の門真市文化芸術推進審議会の出席者について、まず、審議会委員をご紹介します。

本審議会 会長の清澤委員でございます。

副会長の朝倉委員でございます。

中出委員でございます。

わかぎ委員でございます。

原委員は所用につき欠席でございます。

本田委員につきましては15分ほど遅れるご報告を受けております。

また、事務局をご紹介します。当審議会事務局の市民文化部及び生涯学習課職員と、ルミエールホールの指定管理者であります特定非営利活動法人トイボックスの別府館長でございます。よろしく願いいたします。

本会議につきまして、資料1をご覧ください。「門真市文化芸術推進審議会の会議公開要領」の規定に基づき、本審議会を公開しております。なお、門真市情報公開条例第6条の各号に掲げる不開示情報に該当する情報を審議する場合には、議長は会議に諮り、会議を公開しないことができることとなっておりますことを申し添えさせていただきます。

また、議事録を作成する必要があることから、本審議会を録音させていただきますことをご了承ください。それでは以降の進行を会長をお願いいたします。

【清澤会長】

お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

今年度1年の総括の会になろうかと思ひます。それでは進めてまいりたいと思ひます。最初、案件1について事務局よりご説明をお願いいたします。

【事務局】

よろしくお願ひいたします。まず、本審議会の目的としましては、委員の皆さまに、今年度の主な文化芸術事業の取組みをご報告させていただいた上で、本市の文化芸術推進基本計画に基づく取組状況について評価していただき、改善に向けてご意見を頂きたいと思ひます。

それでは、案件1、今年度の文化芸術事業に関する取組みについてご報告させていただきます。

それでは、資料3及びスクリーンをご覧ください。

初めに、門真市制施行60周年記念事業のご報告をさせていただきます。

今年度に門真市は、市制施行60周年を迎えました。市民と喜びを分かち合い、誇りと愛着を高め、また、門真市内外のファンを増やすことを目的に、記念事業を実施するにあたり、市民、団体、事業者等の皆様が市制施行60周年を盛り上げるために自ら企画し、実施する事業の提案を募集しました。採択された事業につきましては、市が認めた記念事業と位置づけし、補助金の交付のほか、情報発信、今後作成するロゴマークの使用などの支援を行いました。本審議会では文化関係の事業を紹介させていただきます。

まず、Wonder Toy Conventionにつきまして、ソフビ製の立体造形物（フィギュア）の造形作家を門真に集結させ、アートトイの素晴らしさを市民に直接触れて感じてもらう、また、市制60周年を記念し10年後の門真市の街並みを、作家と市民とのワークショップ形式でジオラマ制作し、作家との触れ合いの場を創出することを目的に海洋堂が主催の元、開催されました。開催日時は令和5年6月4日正午～午後4時及び令和5年11月19日正午～午後4時の2回実施し、来場者数は両日で1,420名でした。

次に、わがまち門真市民ミュージカル 茨田の堤 ～三つの愛、三つの約束～につきまして、市制60周年の歩みの中で、わが町「かどま」を歴史の中から現在の街づくり、人づくりを題材に市内の子どもから大人まで多くの方が参加し楽しめる内容で実施しました。門真市民ミュージカル実行委員会が主催の元、令和5年8月20日に正午から午後4時からの2回開催しました。来場者数は各回とも600名です。

続きまして、門真市地域伝統文化まつりについて、門真市地域伝統文化まつり協議会員による地域の伝統文化のうち、地車及び太鼓台等が一堂に会し、市制60周年を祝うことを目的に実施しました。門真市地域伝統文化まつり実行委員会が主催のもと、令和5年11月4日午前10時から開催いたしました。来場者数は約3,000名でした。

次に、華麗なるニューイヤークンサートにつきまして、新年恒例のヨハン・シュトラウス2世の名曲をはじめとした聴き易いクラシック音楽や有名な映画音楽などを、関西フィルの華麗な演奏により、市制施行60周年記念を盛り上げることを図り実施しました。関西フィルハーモニー管弦楽団の主催の下、実施されました。会場はルミエールホール大ホールで来場者数は816名でした。

最後に、令和6年3月3日午後2時から、みんなでつくる門真の第九2024が、門真市とホームタウン協定を締結している関西フィルハーモニー管弦楽団のオーケストラ編成による演奏で開催されました。会場はルミエールホール大ホールで、来場者数は699名でした。

続きまして、パイロットプロジェクトについて説明させていただきます。資料4及びスクリーンをご覧ください。

本事業の目的は「協働と共創」の理念のもと、市と市民有志が新しい文化芸術を活か

した魅力あるイベントを創出しながら市民活動のプラットフォームの基盤になることを目的として実施しています。

今年度は令和5年11月25日及び26日に京阪大和田駅前周辺で開催し、まちなかをアートで飾り、気軽に文化芸術に触れることのできるイベントを開催しました。また、コンサートや地元商店街のご協力のもと、キッチンカー等による飲食販売も実施しました。参加者数は延べ6,500名です。

なお、今年度もコンテストを実施し、応募数73点から8点の受賞を行いました。コンテストの入賞作品の展示と表彰式の実施と合わせて、着物などダンスの中で眠っている衣服を現代風のアレンジで甦らせる「エコ・ファッションショー」、門真の昔の街並みや風景をパネル展示する「門真今昔写真展」をルミエールホールにて同時開催しました。

引き続き、実行委員会に交付金を交付するとともに、市民活動のプラットフォームづくりの支援に取り組んでまいります。

続きまして、本市と協定を結んでいます、関西フィルハーモニー管弦楽団との取組みについてご報告させていただきます。資料5とスクリーンをご覧ください。

まず、サポーター向けリハーサル公開です。楽団の活動を応援することを目的に募集している「ホームタウンサポーター」を対象に、今年度は9月15日、10月18日、1月19日に、関西フィルハーモニー管弦楽団の演奏会のリハーサルを公開しました。合計参加者は52名でした。なお、今年度におきましては、ホームタウンサポーター以外の市民も参加できるリハーサル公開をルミエールホール30周年記念式典として実施しました。

次に、音楽サロンです。オーケストラや、作曲、楽器などについて、楽団員等と参加者とが気軽な対話によるサロン形式にて開催し、あまり馴染みのないオーケストラの裏側や演奏会でのマナーなど、楽団関係者ならではの会話により、音楽に親しみ、地域に根差せるよう楽団のファンを確保することを目的に実施しました。今年度は、昨年新型コロナウイルス感染症の影響で延期になった子育て世代向けに開催、企業向けには三菱UFJ銀行でも実施し、楽団のファンの確保に努めました。また、ホームタウンサポーターへご登録いただいている方に対しても2月26日に実施しました。また、3月23日に予定している音楽サロンでは、関西フィルの楽団長によるお話を、門真市民を対象に実施する予定となっています。

次に、中学生音楽会です。プロの演奏会を通し、市内中学生に想像力や思考力などを養うとともに、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造につなげることを目的に、中学生を対象とした、関西フィルハーモニー管弦楽団による演奏会を実施し、市内中学校6校が参加しました。今年度も文化庁の事業を活用し、実施いたしました。なお、来年度に関しては、文化庁の事業へ申請したものの採択されませんでした。市の予算を使用して同演奏会を実施する予定となっています。

次に、ふるさと納税制度についてご報告します。昨年度に引き続き、サポーター向けリハーサル公開ご招待券、1月20日に実施した門真ニューイヤーコンサートのチケット及びゲネプロ見学券の2種類の返礼品を用意しました。また、今年度は新たに、昨年1月15日に実施したコンサートの演奏を録音したCDが返礼品に追加されました。

また、今年度より、ルミエールの小ホールでアンサンブルコンサートを定期的で開催しています。7月7日、12月6日、2月18日に実施し、合計286名にお越しいただきました。

その他に、ルミエールホール会館30周年記念式典において、若い音楽家と関西フィルハーモニー管弦楽団によるコンサートを5月1日に開催しました。来場者数は184名

です。次に、市制 60 周年記念事業でご報告したものと重なりますが、華麗なるニューイヤーコンサートを 1 月 20 日にルミエールホール大ホールで実施しました。今回は門真市制施行 60 周年記念事業として採択されたことから、市から関フィルへ補助金を交付しています。来場者も前回同様、ほぼ満員となり大盛況でした。

さらに、同演奏会で関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者の藤岡 幸夫氏の門真市ふるさと大使就任式をあわせて実施しました。

続きまして、指定管理者の取組状況について報告します。まずは指定事業に関しましてご説明します。資料 6-1 及びスクリーンをご覧ください。

るみえーる亭について、伝統芸能の保存と地域振興を目的に、今年度は 6 月 11 日、10 月 20 日、2 月 16 日に開催しました。来場者数は合計 342 名となりました。

次に、吹奏楽フェスティバルにつきまして、6 月 18 日に実施しました。出演者は 7 団体に来場者数は 440 名でした。

コーラスフェスティバルに関しまして、今年度の 5 月に新型コロナウイルス感染症が第 5 類に引き下げられ、コロナ禍以来初の開催となりました。出演団体は 7 団体に来場者数は 278 名でした。

門真市文化祭につきまして、まず、ダンスフェスティバルが 10 月 29 日正午に大ホールで開催しました。来場者数は 968 名、出演団体は 59 団体でした。市民創作展については、11 月 3 日から 11 月 5 日まで実施しました。来場者数は 3 日間で 1,286 名、出展数は 252 点となりました。市民芸能祭は 11 月 3 日 10 時に開演しました。来場者数は 415 名で出演団体数は 31 団体でした。市民音楽祭につきまして、11 月 5 日正午に開演しました。来場者数は 457 名、出演団体数は 20 団体でした。次に、文化祭の企画部会に関しまして、11 月 3 日および 6 日に着付体験を実施しました。体験者数は 2 日間で 17 名です。また、11 月 3 日の市民芸能祭の司会進行につきましては、大阪府立門真なみはや高等学校の放送部にご協力をいただきました。

続きまして、まちかど・まちなかコンサートに関しまして、門真市民が音楽等に楽しむ機会を増やし、市民であることの誇りを育むことのできる環境を整えるとともに、市外に居住されている方が門真市に対して抱く都市イメージの向上を図ることを目的とし、3 月 14 日午後 4 時から門真団地千石西町 A 集会所にて、ヴァイオリンの徳田雅子さん、ヴィオラの宮地陸弓さん、チェロの斎藤まどかさんによる弦楽三重奏のコンサートを、3 月 19 日午前 11 時から上三ツ島自治会館にて、歌とハープ奏者の清水祥江さんと、ハンマーダルシマー奏者の木南祐子さんによる、コンサートを実施予定としています。

最後に、中塚荘の常設展示室につきまして、布施寛美術コレクションなどを 4 期に分けて展示しました。

以上が指定事業のご報告となります。

続きまして、指定管理者の自主事業等についてご報告いたします。資料 6-2 及びスクリーンをご覧ください。

まず、ロビーコンサートにつきまして、今年度は 12 回開催を予定し、2 月実施分までの参加者数は延べ 550 名となりました。

次に、ロビー展示に関しまして、ホールの入り口を季節に応じた飾りつけをして入館者に楽しんでもらうよう、今年度は七夕祭りやクリスマスツリーなどの展示を 8 回実施しました。

続きまして、ルミエールホール開館 30 周年記念式典を、5 月 1 日に開催しました。参加者数は 184 名でした。

次に、5 月 5 日の午後 1 時から、門真市民文化会館ルミエールホール 30 周年記念で

関西フィルハーモニー管弦楽団公開リハーサルを行いました。来場者数は 606 名でした。

次に、関西フィルハーモニー管弦楽団ホームタウンかどま・アンサンブルコンサート vol. 1 を 7 月 7 日に、vol. 2 を 12 月 6 日に、vol. 3 を 2 月 18 日に全日とも午後 7 時から小ホールで実施しました。入場者数は合計 427 名でした。また、Panasonic XC にて無料公演を 8 月 30 日に開催しました。来場者数は約 200 名でした。

次に、新・BS 日本のうた公開収録に関しまして、7 月 20 日に実施しました。来場者数は 824 名でした。

次に、門真絵画 100 選につきまして、7 月 28 日から 7 月 30 日まで開催しました。来場者数は 230 名でした。

次に、第 10 回わがまち門真市民ミュージカル 茨田の堤～三つの愛、三つの約束～を 8 月 20 日に正午からと午後 4 時からの 2 回公演を行いました。入場者数は各回 600 名です。

次に、ルミエールホール 30 周年記念事業として、東京フィルハーモニー交響楽団による、東京フィルの「午後のコンサート」in 門真を 9 月 2 日午後 2 時から開催しました。来場者数は 935 名です。

次に、門真手作り市につきまして、市民の手作りの作品を展示販売し、地域の活性化を図ることを目的に、9 月 18 日、12 月 3 日に中塚荘で実施しました。なお、3 月 17 日にも開催を予定しております。

門真市民文化会館ルミエールホール 30 周年記念として、0 歳から親子で楽しめるコンサートをルミエールホール大ホールで 9 月 9 日の午前 11 時と午後 1 時半の 2 回実施しました。入場者数は合計 118 名でした。

次に、ラブリーフェスタ de ルミエールについて、10 月 9 日午前 10 時から午後 4 時まで実施しました。入場者数は合計 1,200 名でした。

次に、宝くじ文化公演アニソンプアンタジックコンサートを 10 月 22 日午後 4 時から大ホールで実施しました。入場者数は 1,022 名でした。

次に、グランディーババレエ団ジャパンツアー 2023 大阪公演について、12 月 23 日午後 0 時半からと、12 月 24 日午後 6 時半からの 2 回公演を大ホールで実施しました。来場者数は各回 500 名でした。

続きまして、アウトリーチコンサートに関しまして、小学校 4 年生を対象の文化振興事業として、小学校 12 校で合計 645 名を対象に開催しました。

次に、映画「夕陽のあと」無料上映会につきまして、里親制度をテーマとした映画を上映し、内容を市民に知ってもらおうきっかけづくりとして、大ホールで 2 月 4 日の午前 10 時と午後 1 時の 2 回上映しました。来場者数は 2 公演で 600 名でした。

続きまして、みんなでつくる門真の第九 2024 を 3 月 3 日午後 2 時から大ホールで開催しました。今年度は市制施行 60 周年記念事業として採択されたことから、市から補助金を交付しています。また、演奏に関しましては関西フィルハーモニー管弦楽団が行いました。来場者数は 699 名で、合唱には 106 名が参加しました。

次に、京阪フレッシュアーティスト・リレーコンサート門真公演～ひかりはばたく新星たち～につきまして、3 月 9 日午後 2 時に開催しました。来場者数は 125 名でした。

次に、ヴァイオリン、ピアノ、サクソ、ギターを比較的安価で習うことができるカルチャースクールにつきまして、今年度も 1 年を通して開催しました。生徒数は各講座の合計で 47 名です。

最後に、ルミエールジュニアコーラスについて、6 月～3 月までの月 2 回程度、練習を実施し、コーラスフェスティバルやロビーコンサートなどに出演しました。生徒数は 8 名です。

以上が今年度の文化芸術事業に関する取組みについてのご報告です。

【清澤会長】

ご説明をありがとうございました。多彩な行事をいろいろ進めていただいている感じがすけれども、各委員の皆様で実際にご覧になられた方で、あるいはお聞きされた印象を含めまして何かご意見があればお聞きしたいと思います。指名させていただきたいと思います。本田委員から。

【本田委員】

(会議の参加が)遅くなりまして、申し訳ございませんでした。座長おっしゃっていただきましたように緻密なご報告があったということで私も一部参加させていただいたのもありましたので、実感をもってお聞かせさせていただきました。すごく緻密に幅広い分野で取り組んでおられるということで、しかもビジョンの理念である協働と共創に則した、市内のアーティストさん、音楽協会をはじめたくさんの幅広いご活動と、また市外からの参加者も入られて進められているということで、大きな成果が上がっているのではないかと思います。もう少し中長期的な展望と関連した話は後程お話しさせていただきたいですけれども、いくつかご報告の資料の中でお聞かせいただければと思います。関西フィルハーモニー管弦楽団との連携の中で、音楽サロンといった非常に興味深い取り組みがあるのですが、少し音楽サロンの参加者数を増やしていくというか。コンサートマスターのお話とか、あるいは楽団長のお話とかですね、非常に貴重な会だと思いますので、市民の方はもちろん中心ですが、もう少し幅広く大阪広域圏の中でこの分野に関心のある人に聞いてもらうという形で募集するのはどうかと思うのですけれども。というのは、楽団長の話というのはなかなか聞けないです。オーケストラの運営責任書で、今の音楽文化の需要の動向、それから供給、専門家の団体の活動に一番専門知識を持って取り組まれていますので。私もたまたまそういう機会があって、大阪フィルハーモニーの専門の担当分野の方とお話する機会があって、非常に面白かったです。取材活動の一環だったのですが、非常にクラシック音楽の分野について、これからの観客の動向、どんどん中高年齢になってきていますので、若い世代をどう育てていくか、それから、他の音楽分野、ポピュラー音楽ですね、そういう音楽との連携をどう図っていくか、そのあたりとても危機意識を持っておられて、かなり先駆的な取り組みをされようとしています。そういう意味では関西フィルハーモニー管弦楽団さんも同様だと思うのですけれども。広い意味で関西フィルハーモニー管弦楽団にせっかく来ていただいたので、門真が1つアピールできる音楽文化の資本の1つであると考えて、全府的、極端に言えば全国的にそれを使ってもらおうという視点があるかなというのが1つ目です。

それから中学生音楽会、これはすごく良い取り組みだと思うのですけれども、お尋ねですが、市内の全中学生は、在学中に1回は必ずオーケストラを体験できるということになるのでしょうか。

それから3つ目ですが、第九に出させていただきます、非常に良かったです。たまたま今年はヴェートーベンが第九を初演して、1824年にウィーンで初演してちょうど200周年で、記念すべき年です。

最後に、カルチャースクールということで、ヴァイオリン、ピアノ、サックス、ギターという風に参加者がおられるのですが、その位置づけには比較的安価で若い世代に教えていただけるという風に報告されたのですが、それも大事だとは思いますが、もう少し視点を広げて、それぞれの音楽分野での専門家を門真の地で育てていくというのも大事だと思います。そういう意味で芸大の院を卒業された方でも活動の場は少ないですよね。そういう若い次の時代を担うタレント、才能を持った方々が若い世代、小中学生とかを育てていくのを公共団体としてサポートするという視点を入れていただいて、

門真で若い世代を教えていけるということ、専門技術を活かして、門真で活躍できる機会・チャンスを意識的に、これは音楽分野だけではないですけれども、演劇とか美術とか音楽とか、そういう芸術文化の様々な分野で使っていただけたらなと思います。以上でございます。

【清澤会長】

ありがとうございました。本田委員からありましたご質問の中で何点か、もしお答えいただけることがあればお答えいただければと思いますが、事務局どうでしょうか。

【事務局】

貴重なご意見ありがとうございます。

まず、音楽サロンに関しまして、もともとこれを始めたきっかけが、関西フィルハーモニー管弦楽団を支援し連携していくというところもございまして、ホームタウンサポーター制度を本市は設けさせていただいていまして、関西フィルハーモニー管弦楽団をどんどん応援していこうという風なところで、その一つの特典として音楽サロンを設けております。また、音楽サロンを市内の企業で随時やっていくというのも企業を含めて関西フィルハーモニー管弦楽団との支援・連携に繋がっていけばという側面で実施させていただいておりました。委員のご意見・ご指摘にもありました市内・市外に限らずというところもございまして、まずは関西フィルハーモニー管弦楽団の取り組み自体をもっと知っていただくことが必要かなと。その中でその特典というものが効果的に繋がってくるのかなという風に考えておりますので、そのあたりの PR の仕方含めて関西フィルハーモニー管弦楽団とこんなことをやっていますというところを大々的にアピールをできるように努力させていただければなという風に考えております。

もう1つ、中学生音楽会につきましては、基本的には全中学校を対象としており、ひと学年のみですけれども、基本的にはすべて回っていくような感じです。どの学年かについては、学校からの意見で、学年については学校で指定させていただきというところですので、3年生が出てくる場所が多いですが、2年生あるいは1年生といった学年も参加されるといった形です。基本的には順々にいくと皆さん鑑賞していく機会ができていくという風に考えております。

ルミエールホールの館長の別府です。今ご意見出ました中で、カルチャースクールに関してはそうすけれども、本田先生が先ほどおっしゃった若い世代のサポートという意味では、去年から始まったのですが、京阪フレッシュコンサートというものを始めました。これは京阪沿線の6市、守口、門真、寝屋川、枚方、宇治、八幡、この6市が協力して京阪沿線の若手のアーティストを発掘して、その人たちが公演をできる場を提供しようということで始めまして、ついこの間、門真公演が終わりました。門真では中学生と高校生のピアニストが入っております。それ以外に4組の方たちが出てくれました。各市でも4組ぐらいが出て、最終的に応募も結構ありまして、50組ぐらいの応募があってそのうちの20組が今回各館でそれぞれやったのですが、この後の出口として、若い人たちの演奏機会がなかなかないということで共催にスーパーのイズミヤさんと京阪電鉄さんが入ってくれたので、さっそくイズミヤさんのスーパーの中でのコンサートが3か所実現しました。4月に開催します。それと京阪の駅コンを今後やっていこうということで、このコンサートに出た人たちの中から希望者はそういう駅コンとかスーパーでのコンサートに出られる、というような出口を作りながらやっております。

中出先生がずっとやられておられる音楽協会さんの若い音楽家の、今回ルミエールホールの30周年ということでご出演いただいて、関西フィルハーモニー管弦楽団のアンサンブルの方たちとの共演というのをさせていただきました。内容もとっても素敵で、

若い人たちがかわいらしくて素晴らし演奏家が集まったので、何かこれは定期的に先生にご協力をいただいてやっていけたらなという風に考えております。

関西フィルハーモニー管弦楽団は本田先生がおっしゃられていました音楽の文化資本で、門真市の文化資本というのはごもっともなので、関西フィルハーモニー管弦楽団にご協力していただきながらいろんなことを考えてきたいと思っております。

ルミエールホールで発表したのですけれども、若手のアーティストたち、音楽家さんたちのコンクールを、ルミエールを舞台として関西フィルハーモニー管弦楽団と 21 世紀協会というところでやるということが、一昨日記者発表されました。門真からそういった若い方たちの発信というのもこれからできるのではないかという風に思います。以上です。

【清澤会長】

それでは、わかぎさんどうでしょうか。

【わかぎ委員】

おはようございます。前回来た時よりも具体的な活動が多くなったなということはずごく実感して拝見しました。

私は1年に1回とか半年に1回とかしかお邪魔しないので、できれば前年度比みたいなものを知りたかったなど。資料で前年度にやったコンサートと比べると何人減ったとか増えたとか、そういう同じ演目、例えば、らくご会とかは同じ数をやっているから、そういうのがわかるとよりいいなと思いました。

音楽を中心にすごく活動的になってきましたねという印象です、私自身は。

【清澤会長】

ありがとうございます。今、ご指摘あった、活動がある程度レールに乗るといいですか、定着してきて毎年恒例的なものも出てくると思いますので、その中の成長度合いとか成果ですね、前年比みたいなものが全部出るといいかもしれませんね。今回の色々なこととかは書いてもらっていますけれども、前回と比べてどうだったとかは。アートフェスティバルは随分、少しずつ広がってきていると思うのですけれども、そういった成果を示していただけるという点でも比較をしておくといいですね。また次回に心がけていただけたらなと思います。

中出先生どうでしょう。

【中出委員】

お世話になっております。今、本田先生のお話を聞かせていただいて、私も同じようなことを考えていたこともあるのですけれども、音楽サロンですね、楽団の方のお話を聞けるすごく貴重な機会に、ちょっと参加数が他のものと比べて少ないなと思ったのですけれども、これは宣伝としてはどのように広報をしたのかなっていう、本当に話だけみたいになると堅苦しくって、音楽をつけるとかね、なんかそういう感じでないと、講演会みたいになると参加しにくい方もあるかなと思ったので、そのあたりお聞きしたいと思いました。

それと、関西フィルハーモニー管弦楽団さんといろんな曲をされてクラシック以外の曲もされて素晴らしいなと思うのですけれども、10月22日にアニソンのコンサート、断トツ参加者が多いから、やっぱり有名な方がいたからみんな行かれたと思うのですよね、やっぱりクラシックはまだまだ敷居が高く感じ感じられるのかなと。でもすごく昔と比べたら、皆さん足を運ばれるようになってすごくよくなったと思います。実は一部

の方には申し上げたのですけれども、今年の2月から1年間、基本ウィーンに住んでいまして、コンサートもして。やっぱりウィーンと言ったら音楽の都という、みんなそう思っているでしょ、ウィーンと言えば音楽みたいな。たとえば、全く音楽に興味のない方がウィーンに旅行したら、ここに来たらやっぱりクラシックを聞かなくて聞いているのですよね。門真もそういう風にクラシックのまちに、興味はないけど何か聞かないとみたいだね、そういう風にもって行くのも。聞いたらよかったわって。そういう風に、反対にクラシックを好きな人を聞かしていくというよりも、先にイメージを作り上げていくのもいいのかなと思いました。リハーサルを無料で聞かしてあげるとか、そういうことから始めるとか。有名な方を呼んでみるとかね、そういうのもいいかなと思いました。

あと、カルチャースクールのこともおっしゃってましたね。若い方を育てるみたいな。私も昨年お世話になりました、5月に。すごく楽しくさせていただきました、子どもさんもたまたま奈良の子ばかりになってね、反田さんが奈良に音楽の都を作るって言って、ショパンコンクール。奈良が何か来ているのではないかという感じ。奈良は京都よりも今はすごく優秀な感じになってきて、門真も頑張っしてほしいと思うのですけれども。門真の子が1人でもいたら本当に良かったのですけれども、ソリストが。私自身も若い方のコンサートはすごく意味を感じていまして、見ている人も大人が演奏していたらプロなんやから上手なのが当たり前というの、子どもさんとかが頑張っていたら、別に音楽に限らず、私も今一生懸命やっているクラブ活動を頑張ろうとかね、勉強頑張ろうとか、そういう励みにもなるかなと思うので、音楽だけではなくて、すごくいいじゃないかなと思ったのですけれども。

音楽協会の分ですけれども、毎年やるのは結構大変で、出演者を集めるのが。どうやって集めたらいいのかなと思っているので。皆さん何かヒントがあれば教えていただきたいです。オーディションをやることも考えたのですけれども、オーディションをやるとなるとその審査方法が難しいでしょう。小学生から大学生までの中から何人か選ぶ。楽器もばらばらでというのはちょっと不満が出そうなので、今は知り合いの音楽家の方からのついでで楽器と年齢をバラバラにして選んできているっていう状態なのですけれども、これもなんかちょっと難しいと思っているのですが、私自身、若い方のコンサートはやりだしてよかったなと思っておりますので、何かご協力でもさせていただけることがあれば嬉しいなと思っております。以上です。

【清澤会長】

ありがとうございます。非常に音楽中心の展開が多いものですので、そういったご意見も出てくると思っています。朝倉先生もご意見をいただければと思います。

【朝倉副会長】

はい、皆さんと同じで、なかなか多彩な活動になってきたなという風に思いました。ただ、感想としてはですね、この資料は事前にいただいておりますので、説明をもう少し簡略化していただいて、そして（この会議が）4時までですので、15分ほどしかないのでちょっともったいないかなと思って。例えば、ポイントになるものとか、見出しだけ取り上げてもらうとかでいいかなという風に思いました。

それから指定管理の自主事業の実績状況等やりましたけれども、例えば、指定管理の主権について市の方から見に行かれてどのように評価したのか、そういう観点があるかなと思うのですね。傍から見たら、コンサート聞きに行って、職員が遊んでいるやないかと思われるかもしれませんが、市の方も数字しか見られないとすると、数字だけで判断することになりますよね。すごくいいものやっても、これってこんなけ

しか入ってへんのって。それなら来年はカット違うのとかですね、それからめっちゃ入っていたけれど客寄せすぎじゃないかとか、色々評価が出てくると思うので、そういうことをやられてもいいのかなと思います。

あとは全体的なことですが、後の資料に中学校の部活動地域移行のことが出てきますけれども、中学生に（演奏を）聞かせるやつですね、今年は文化庁。文化庁は絶対に毎年もらえるということはありませんので、同じ地域に。そうすると、市のほうは毎年予算をつけるつもりでないと。その覚悟がないと。今年は付きませんでしたからなしですとかは、そうならないでほしいなという風に思います。

それから、合唱フェスティバルとジュニアコーラスの人数。昨今合唱が弱いですね。第九の合唱は 106 人集めているのはなかなかだと思うのですが、子どもたちとか、一般の PTA とかお母さんとか、その辺の合唱団の育成を。ちょっとここからあまり合唱というものが見えてこないの、一番お金のかからない音楽の趣味ですから少しその辺に一度光を当ててみてみてはどうかと思いました。それから 6 市で何かアーティストを、これは選定というか、どのようにされているのですか。基準といいますか。

【事務局】

先ほど、中出先生の、若い人たちをなかなか集めるのが大変だと。やはりうちもそう、それを含めて 6 市が協力して、例えばルミエールホールであると、ロビーコンサートで年間 11 コンサートをやっているの、そういった方たちであるとか、色んなところでまちまちコンサートで知り合った方たちに声をかけて、6 市がみんなそれぞれ声をかけることによって、結構 60 組ぐらいですかね、集めました。選定に関しては、先ほど中出先生もおっしゃられていたみたいになかなかオーディションを、その日にちを決めてどこかでやるというのは、ちょっと難しいので、今どきの YouTube であるとか、そういったもので URL を送っていただいて、各市の事業担当者もしくは音楽に詳しい方たちが、各市がそれぞれを選んで、うちはこの人たちを呼びたい、というような形で選びました。実際、リハーサルで聞いたらちょっと違ったなっていうこともたまにあるのですけれども、大体、クオリティ的には結構クオリティの高い人たちが集まったと思っております。非常に良かったかなと思っております。

【朝倉副会長】

ありがとうございます。あとはコンクールの話が出ていましたけれども、例えば、ある市でやっているのは、地域を定めず、いわゆる地域のアーティストをオーディションして、その人たちを教育して、学校に派遣して、その様子を市がチェックをして、教育をして、そしてご褒美に市のホールでリサイタルをしてあげる。ご存知かと思うのですけれども。こういうパターンがあると思うのですね。これぞ本格的に地域の子供たちのためにやろうとしているアーティストを育てる方法じゃないかと思います。アーティストはみんな、何でもいいからやりたいというのが正直なところで、小学校でもいいしどこでもいい、駅でもいい何でもいい。そうじゃなくて、あなたたちはこういう信念がありますというか、どうですかというか、そういう教育も兼ねてやって。例えば門真市のご褒美は、関西フィルハーモニー管弦楽団とコンチェルトができますよっていったら、これはすごいことだと思うのですよ。そういう工夫もあっていいのかなと思いました。簡単に言いますと。

アウトリーチは関西フィルハーモニー管弦楽団がすごく協力して大変な状況の中やってくれているのだと思うのですけれども、もっとピアノとかいろいろやっていったらいいなと思うのですけれど。

【事務局】

ありがとうございます。アウトリーチに関して、今までは弦楽四重奏で回っていました。なかなかやっぱり音楽室に出張で行って各クラスに音楽室でコンサートを聞かせるっていうように、本当に彼らの普段慣れたところでやるっていうことで喜んでもらっていたのですが、最後に子供用のヴァイオリンを2台持って行って引きたい人には触らせて、実際に音を鳴らす、ただキコキコ鳴らすだけですけれども、でもやっぱりみんな興奮して、ヴァイオリン弾いたって喜んでくれている。それをずっとやっていたのですが、実は門真市の吹奏楽部が壊滅的な状態になっておりまして、今唯一残っているのが3校です。その3校も20名以下です。そんな状況の中、先ほど先生がおっしゃった部活動の地域移行っていう話もあって、ルミエールホールの中に関西フィルハーモニー管弦楽団の協力の元、吹奏楽部をつくらうということを、今、市の教育委員会の方たちとやっております。来年度4月以降にスタートする準備をしております。そんなこともありまして、吹奏楽を中学校に入って部活動に入ろうと思うには、やっぱり小学生からそういうのに親しんでもらわないといけないとのことで、今年のアウトリーチは、関西フィルハーモニー管弦楽団の木管五重奏にご協力させていただいて全部は回れなかったのですが、半分6校木管で回りました。木管で回って、中学で興味があったらこういう楽器触れるよ、吹けるよって言ってPRをして、すりこみを始めたというのがございます。

今後そういう風に0歳から、お腹の中にいる時から大ホールで関西フィルハーモニー管弦楽団の曲を聴いて。実は、これ人数が少ないのは舞台の上でやっています。なので、子どもたち、家族をピクニックコンサートみたいな形で舞台の上に莫蔭を引いて見せているので、人数が非常に少ないですが、そこで始まり、先ほど出た中学校の必ず1回聞けるということは、市のほうで助成金が取れなくても続けてくれるという形で頑張って予算を取っていただいたので、これも必ず中学の3年間の中で1回は大ホールで関西フィルハーモニー管弦楽団のフルコンサートが聞けるという状況を作っていただきました。その後中学校の部活動であるとか、常にルミエールに行くとか何か経験ができるということ、市の皆様のご協力の元作っている段階です。

合唱に関しては、おっしゃる通りなのですが、コロナで門真市のPTAであるとかそういうところの合唱団が3つ解散したり休演したりしてしまっています。中出先生のところは活発にやられておりますけれども、中学では三中さんに唯一コーラス部があるので、それも部員がずっと少なかったのですが、久しぶりに新入部員が入ってきて、今年第九に7人参加しています。なので、三中さんはこれからコーラス部か活発になるかなと思って楽しみにしています。そんな感じでございます。

【清澤会長】

どうもありがとうございました。

各委員から意見をいただきましたし、あとは進行のこともありますので、次に移ってまいりましょうか。時間のこともありますのでもしあれでしたら適当に大事なところだけご説明いただいても結構です。

【事務局】

それでは、案件2、門真市文化芸術推進基本計画に基づく本市の取組状況について、案件1での報告と重なる部分がありますが、ご報告させていただきます。資料7及びスクリーンをご覧ください。

まず、柱1 市民の文化活動の活性化につきまして説明します。

市民等の文化活動の支援及び地域の文化活動の支援につきまして、今年度は市制施行

60周年を迎えるにあたり、多くの文化芸術関係団体に補助金の交付や事務補助、各所関係機関と調整を行いました。また、市制施行60周年記念事業の1つとして、11月4日に速見小学校から古川橋駅前の間でだんじり・太鼓台によるパレード「地域伝統文化まつり」を開催しました。また、みんなでつくる門真の第九につきまして、滞りなく実施できるように各種関係機関との調整等の支援を行いました。大和田駅南側の暫定の空き地について、パイロットプロジェクトの開催場所として実行委員会に提供するなどの支援も行いました。また、8月1日に唄と踊りからなる伝統的民族芸能「ひんや節」を門真市地域文化財第1号として指定しました。さらに、ふるさと門真まつりにおいて、関西フィルハーモニー管弦楽団の生演奏による盆踊りでお披露目するなど、地域の文化力醸成に向けた支援を行いました。

身近な文化活動の促進につきまして、普段は文化芸術に触れる機会が少ない人にも気軽に楽しんでもらうきっかけづくりとなるように、今年度もパイロットプロジェクト事業「KADOMA ART FES」を実施しました。また、関西フィルハーモニー管弦楽団のホームタウンサポーターを対象にリハーサルの様子を無料で見学できる機会を設けました。また、ルミエールホールにおきまして、季節に合わせたロビー展示や、誰でも無料で聴くことのできるロビーコンサートの実施等、あらゆる人が対象の体験型・鑑賞型イベントの創出を図りました。

学校教育での文化芸術推進活動推進に関しまして、文化庁の事業を活用し、中学生を対象にプロの楽団である関西フィルハーモニー管弦楽団によるフルオーケストラの演奏を聴くことができる中学生音楽会を実施しました。また、指定管理者より小学4年生を対象にプロの演奏家によるアウトリーチを実施し、学校教育での文化芸術活動推進を図りました。また、中学生の部活動を地域に移行するにあたり、調整等を進めています。

次に、柱2魅力的な文化芸術活動の充実と文化的な資本の蓄積の取組状況について説明します。

市民による多様な創造活動の支援につきまして、市民参加型の音楽講座として、音楽サロンを実施しました。また、パイロットプロジェクトにおいて、市内の中・高校生に弁天池やリサイクルプラザ、店舗へ壁画アートを制作していただきました。

文化芸術活動のための資金調達につきまして、関西フィルハーモニー管弦楽団によるふるさと納税の返礼品を今年度もご提供いただきました。また、柱1でも紹介した、文化庁事業を活用し、関西フィルハーモニー管弦楽団による中学生音楽会を実施することにより、質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保することができました。また、関西フィルハーモニー管弦楽団のクラウドファンディングの支援として、市庁舎などの公共施設にチラシを配架し、PRに努めました。

アーティストの門真での活動の促進につきまして、ルミエールホール、中塚荘、市民プラザ、公民館における各諸室を提供するほか、パイロットプロジェクト実行委員会が開催した事業「KADOMA ART FES」では、全国各地から作品を募集し、イベント当日に作品を展示しました。

活動場所となる施設や機会の整備につきまして、先ほどご説明しました KADOMA ART FES の作品を、地域の商店街にご協力をいただいて、空き店舗やお店の中に作品を展示したほか、大和田駅前の暫定的な空き地である市有地を活用し、アートフェスの会場として提供したことや、イベント後に入賞した作品をルミエールホールで展示しました。また、公共施設を活用し壁画アートを実施するなど、活動場所となる施設や機会の整備を図りました。

続きまして、柱3市民の情報発信力強化によるシティプロモーションの推進について

説明します。

個々の活動の発信力の充実につきまして、門真の第九など、撮影が必要な団体に、指定管理者より撮影者を紹介するなどの支援を行っています。

情報発信プラットフォームの構築につきまして、ルミエールホールの特設ページにてアーティストバンクのページを設け、アーティストとイベントの主催者、市民と繋げることを図りました。また、パイロットプロジェクト主催のイベント「KADOMA ART FES」の専用HPを作成し、情報発信プラットフォームの構築に繋げています。

シティプロモーションの推進に関して、関西フィルハーモニー管弦楽団と協定を締結しました。また、関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者の藤岡幸夫氏を門真市ふるさと大使、愛称門真情熱大使を委嘱しました。

門真を代表するコンテンツの創出につきまして、ランドマークとなる施設である門真市民文化会館ルミエールホール等の文化芸術拠点における環境維持や改修修繕を行い、施設の整備を行っています。また、現在建設予定であります生涯学習複合施設に、ランドマークとなるようなアートを、室内と屋外に1つずつ設置を予定しています。

最後に、柱4 協働共創の場と機会づくりについて説明いたします。

文化芸術活動プラットフォームの形成に関しまして、「協働と共創」の理念のもと、市と市民有志が協働し、多くの市民参加・参画を期待して、新しい文化芸術を活かした魅力あるイベントをもとに創作しながら、市民活動プラットフォームの基盤となることをめざし、門真パイロットプロジェクト実行委員会を昨年度に設立しました。

共有データベースやアーティストバンクの整備に関しまして、指定管理者により、門真で活動するアーティストとイベント主催者、市民をつなぐことを目的として、門真アーティストバンクを設置しています。

市役所内部での理解の普及に関しまして、市職員の文化芸術活動の参加促進を図るため、文化芸術イベント等を職員向けポータルサイトにて周知を行いました。また、市職員向けに関西フィルハーモニー管弦楽団による音楽サロン研修を実施しました。また、関西フィルハーモニー管弦楽団によるニューイヤーコンサート及びみんなでつくる門真の第九については、市労働組合の協力のもと職員向けの料金補助を実施しました。また、新規採用職員向けに門真市の歴史について研修を実施しています。

事業者の文化芸術活動への参加促進に関しまして、KADOMA ART FESにおいて、地元商店街や企業に作品展示等の協力をいただき、事業者の社会貢献促進を図りました。また、関西フィルハーモニー管弦楽団との取り組みでPanasonic XCにて市民向けにアンサンブルコンサートを実施しました。また、関西フィルハーモニー管弦楽団と市内の中小企業をつなげるための取組として、ものづくり企業ネットワークの方々をリハーサル公開へ招待しました。

以上が計画の進捗状況についての報告になります。

【清澤会長】

はい、ありがとうございました。最初の方とかなり重なっている部分があったと思うのですが、別の視点から説明いただいたということで、ありがとうございました。

それでは時間のこともございますので、この辺りのこと、あるいは全体を含めまして、最後にまたそれぞれご意見いただきたいと思えます。まずは本田委員から。

【本田委員】

はい、1点だけ。基本的にはですね、これだけ芸術文化の取り組みで頑張ってきたので、あとはそれをいかに情報発信とか、全国全世界に情報発信して、門真という場

所は、芸術文化にこれだけ取り組んでいるのだと。そうすると世界の人々が先ほどウィーンの話が出ましたけども、やっぱり何百年もかかってフィレンツェだと 500 年とかです、積み重なってきているわけですけども、門真はまだここ何年かだけですけども、ここまでよくやっているなど。音楽の分野、美術の分野、演劇の分野ですね。それをやっぱり認識してもらおう。だから、あの町ですねという印象を、まず申請を持って行ったときに知ってもらおう。インプットされる情報が入るといのは一番ポイントだと思うのです。例えばわかぎ先生の去年の茨田の堤ですね、観させていただいて素晴らしいと思ったのですけども、あれは情報発信されているのかどうかですね。例えば記録されて、SNS とかでこういう形で門真は取り組んでいるのだよと。もちろん著作権者とか、いろんな調整ありますけれども、それをまずやるということがポイントだと思います。先ほど合唱のご指摘あったのですが、私先日パナソニックの合唱団のコンサート見させていただいて、すごいなと思ったのですけども、関西・京都・大阪の大学の男性合唱団中心ですけども、研究生という形で入れられまして、一緒にコンサートされています。大学合唱団にとっては門真のパナソニックというのは、拠点のイメージがあるのですね、文化拠点。それを各分野で育てていって発信していく。これが一番大事なんじゃないかなと思います。そういう意味で、創造都市ネットワーク日本というものがあって、全国 169 の自治体が入っています。各分野でユネスコと繋がりながら、世界に情報発信していこうとやっていますので、ぜひこれは積極的に。まあどの分野で手を挙げるかって難しいかもわかりませんが、さしあたり国内のネットワークに参加するだけだったら別に分野特定しなくてもいいので、つい先日も岡山市が文学でやられたのですけど、日本で初めて。そういう意味で、工夫しながらどう特色を生かしていくかというのを各先進都市の情報を知りながら、かつ文化庁も参加していますから、国の方にもインプットしていくという風に、大きな役割を果たします。ぜひ、ご検討いただけたらと思います。よろしくお願ひします。

【清澤会長】

ありがとうございます。では、わかぎ先生どうでしょうか。

【わかぎ委員】

はい、今はまだ過程だと思うので、色んなことに手を広げて。これぐらいやれるようになってきましたよっていう。すごい初めてお伺いしたときよりはすごく活動的になってきていると思うのです。それは多少音楽の方に向き出したのはそういう特色だと思うので、それをどう生かしていくかっていうのもっとこれから考えはった方がいいのじゃないかなと思うのです。例えば豊岡だったら豊岡はもう 10 年間で演劇のまちになりましたけれど、それはやっぱりその劇作家協会の大会を誘致してみたりとか、豊岡市がもう絶対に演劇やるんやって決めて、今私 3 年連続で行っていますけれども、演出をします。市民の人が演劇のまちっていう豊岡演劇祭っていうのはもう 10 回くらいやっているのですけど、やりだしてからお芝居観るようになったりしているので。音楽のまちだと音楽のまちっていうその具体的なもうちょっと SNS でどんな展開するとか、そういうことを。例えば音楽祭やるのだったら、どんなちっちゃくても音楽祭やっているんやって。門真に映画祭をやっている子がいるじゃないですか。知り合いですけど。まさかあの子がそんなことを言う、奈須くんがそんな適当なこと言って映画祭なんか、別にいいん？とか思ってたいら何か賞取ったりとかして、でそのうち門真で絶対映画祭やっているんやってやっぱみんな思うのですよね。だから、ちっちゃくてもいいからフェスやったり、何かそういう浸透率を高めていく方が発信しやすいなとは思ひます。

【清澤会長】

はい、ありがとうございます。では、中出先生、どうぞ。

【中出委員】

大体皆さんの意見が出揃ったと思うので。私も今ね、YouTube とか、比較的安価な方法で簡単に日本中とか世界に発信できたりするので、何かそういう方法で、何がバズるかわからない世の中なので、やってみたらどうかなとは思いました。

【清澤会長】

はい、ありがとうございます。では、朝倉先生。

【朝倉副会長】

市民の文化活動の活性化っていうのは、大局的な話ではなくて、すごく細かい話ですけども、これはもう多分、教育委員会と共同してやっておられると思うのですが、先ほどの部活動の地域移行ですけれども、ここで私もそのことについては関心を持っておりまして、実は今年度さっき 20 人以下の部員とおっしゃいましたけれども、ある中学校は 5 人しかいないですよ。で、多分もう一校も 10 数名やと思うのです。で、その子たちと寝屋川市の中学校の子どもたちを、うちの大学の方に呼んで、いつも 5 人でやっている子が、60 人とか、そんな人たちと一緒に合奏できて、なんかもう感動しているのですよね。ここで考えないといけないのは、その指導を例えば市が引き取ってしまうとか、そこは非常に危険な部分があると思うのです。指導したいと思っている先生は必ずいるのです。だから、形としてそれが言葉悪いですけど、取り上げるみたいな形になって、プロの人が教えてくれるから、そりゃそっちの方がええねんでって（いう風潮になるのは良くない）。クラブ活動っていうのは、生活指導とかその子の人格の形成とか、普段の学校生活ともものすごく強い関連があると思うので、そこを上手く教育委員会と連携しながら、そして現場の先生の意見も聞きながらやっていただけたらなあと。で及ばずながら、本学園も協力できるかなっていうのは考えております。

【清澤会長】

ありがとうございました。今日ご報告いただいて、各委員の方からもご意見あったかと思うのですが、やっぱり音楽の関係が非常に今中心で内容もかなり充実していて、回数も増えてきているということですが。だんだんとこのあたり今度はこの音楽活動をベースにしてどう展開していくかですね。参加するあるいは育成するあるいは鑑賞するという色々な局面が、音楽文化にあると思うのですけれども、それもそろそろ少し系統立って、これから展開していくという。一種の考え方を、そろそろ整備していてもいいかなという。その中で、今朝倉先生おっしゃったような、きめ細かいところですね。それなんかも配慮しながら、展開していただくということが大切かなという風に思います。

それと音楽だけやなしに、美術ですかね。アートの方も色々されているということもありますし、多彩な展開、舞台芸術もですね、今もミュージカルとかあると思うのですけれども。これもわかぎ委員からご指摘あったように去年と比べてこうだという、あるいは担当されている意欲でもって評価ですね、やはり試みて、より洗練していくというか、あるいはより充実したものにしていくという。その辺これからやっていただけたらどうかなという風なことも思いますし、またその辺を次のこの委員会でも聞かせていただくということが大切かなと思いました。あとはいつも言う発信力ですね。これも門真フィルムコミッション奈須くんがやっていますけれども、本気出すいうて、もう彼 SNS 中心ですよ。世界に広がってしまうというような感じでやっていますけれども。

やりようによっては、そんな形もあると思いますので。その発信力ということについても大いにこれからご協力いただいて、やっていってもらったらどうかと思います。大体以上総括になりますので、最後をお願いをしたいと思います。それでは今後の予定ですかね。あるいは事務局で、最後に一つ報告いただけたらと思います。

【事務局】

そうですね、今後につきまして来年度も引き続き文化芸術推進審議会を開催させていただき予定でございますので、一旦委員の皆様につきましては今回で任期は満了ということになるのですが、また改めて再度市内部で調整しまして、お願いさせていただきこともございますが、その際、引き続きご協力いただければ幸いです。今後の予定につきましては以上でございます。

【清澤会長】

ありがとうございました。それではこれで委員会ですね、総括ということで終わらせていただきたいと思います。本日はお忙しい中、貴重な意見を賜りまして本当にありがとうございました。ということでよろしいでしょうか。

【水野市民文化部長】

それでは最後に、事務局にお返しいただきましてありがとうございます。委員の皆様におかれましては任期中最後の審議会ということで、本当にたくさん貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。本審議会の運営に対するご意見、また情報発信について、それから指定管理者が行う事業への評価等々様々なご意見をたくさん頂きました。それぞれ今後の参考にさせていただきたいと思います。引き続き本市の文化行政にご指導ご鞭撻を賜りますようによろしくお願いを申し上げまして、本日の審議会を終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。